

平成30年度 学校評価(保護者) アンケートまとめ

1 実施について

(1) 実施にあたり

アンケート内容は一部表現を変えたほか、「21 学校ホームページ」についての項目を追加させていただきました。その他は、昨年と比較するためほぼ同じとし、各項目で、「そう思う」4点、「少し思う」3点、「あまり思わない」2点、「思わない」1点として集計し結果を数値化しました。

表の右にあります文字数字は、記入されていなかった人の学部と人数です。「小1」であれば、小学部所属で1名の方が記入していなかったという意味になります。

2 評価結果について

(1) 回収数結果について

回収率は、小学部93.8%(昨年度92.6%)、中学部95.7%(昨年度100%)、高等部92.1%(昨年度87.7%)でした。昨年度よりも小学部、高等部につきましては回収率が上がりましたが、中学部につきましては100%とはなりませんでした。

御協力ありがとうございました。

(2) 昨年度からの改善努力点について

昨年度の学校評価を受け、特に評価が低めであった2点の改善努力を行った。

①キャリア教育、進路情報について

- ・1階中央廊下に新たに掲示板を設置し、「進路・キャリア教育情報コーナー」を設けた。併せてデイサービスや施設等の情報に係る「生活支援関係コーナー」も設けた。キャリア教育とは何か、実習及び進路先はどこにあるかを本校との位置関係を視覚的に情報提供する等に取り組んだ。
- ・夏季休業中に行った就労支援セミナーを「生活・就労支援セミナー」とし、就労だけでなく現在および将来に係る生活にも視点を当てたセミナーを実施した。
- ・今年度、現場実習報告会の期日を利用し、新たに福祉講演会を開催した。
- ・PTAと連携を図り、施設見学会を2回実施した。

②合理的配慮、個別の教育支援や指導計画について

- ・担任と保護者の皆様が児童生徒一人一人についてより良い方向に導くための共通理解をしていく場、紙面を媒体として顔を合わせて話す場が必要であると考え、しっかりとその場を設けた。年度当初に家庭訪問を実施していたが、時期的に学校側がまだ実態を十分に周知できていない、学校としての個々に児童生徒の方向性が十分にまともっていないといったことから6月に面談習慣を設けた(新入生及び転入生については家庭訪問をこれまで同様の時期に実施)。
- ・PTA総会において合理的配慮について資料だけでなく、知的障害や発達障害に係る具体例を話しながら理解を図った。また、各学級担任にも具体的かつ丁寧な話し合いを進めるよう事前周知を図った。

今年度、①については項目13(キャリア教育)の評価点が3.60(昨年度3.55)、項目14(進路情報)3.62(昨年度3.58)と、いずれも点数は上昇しており、一定の評価いただけたものと思う。

しかし、意見欄において「就労や入所のデータ(数値)だけでなく、本人家族からの生の声を聞きたい」「夏季休業中の参加は子供がいるため参加できなかった。子供を見てくれたら参加したい」といった御意見もあり、次年度さらに工夫をしていきたい。

②については、項目4(個別の各計画)と項目5(合理的配慮)について、昨年度、どの学部も項目4に比較し項目5は点数が低くなるという結果に基づく改善努力であった。今年度は、高等部については前年度同様にやや点数が低くなる(3.78と3.71)結果であったが、小中学部については各項目同様の点数(小3.82と中3.83)であった。指導支援の根幹となる部分だけに引き続き丁寧な話し合いを周知していきたいと思う。

一方、教員と保護者が顔を合わせてしっかり話す場を設定するためにその時期がやや遅くなり、意見欄等において「前年度の担任が替わり、顔が分からないまま当面子供をお願いすることが不安」「書面よりも生の声の方が大切」と言った御意見もあった。職員評価の中でも「年度当初にまず話したい」といった意見もあり、家庭訪問等も含め話し合いの時期、方法については再考したいと思う。

(3) 今年度の学校評価について

一昨年度、昨年度も評価の高いものが項目1（目標について）、項目22（入学させて良かった）、項目4（個別の各計画）であった。今年度も学校として目指すべき方向性は御理解いただいているものと思う。

項目17（スクールバス）についての評価点が3.58と低い。御意見には「介助員の増員」「連絡ミス」「介助員の対応方法等」について記されている。介助員の増員は学校独自ではできないことであり、県にも要望はしている。現状、東庄コースについては香取学園生の年度途中の転入等の兼ね合いもあり、乗車人数がかなり多い。その都度、児童生徒の特徴等を考慮し、座席を入れ替える等努力はしている。連絡ミスや対応については改善することが可能であり、スクールバス委員会等を利用しながら具体的にどうしていくべきか再考し、次年度に向かいたい。

項目22（勤務態度）について、全体評価点は3.60を下回るものではないが、学部毎に昨年度と比較した場合、3.60を下回る評価があり、御意見欄でも具体的に書かれているものが非常に多い結果となった。「言葉遣い」では「命令形である、上から目線、ヤンキー口調、怒鳴る」、「挨拶」では「他学部の保護者だからしなくていいといった感じ」「挨拶しても、顔が合っても挨拶しない」といった意見があった。教員として、或いは社会人として当たり前のことができないことは猛省すべき点だと感じる。また、本校に限らず若い教員が増える状況にあるため、年度当初の指導、さらにはモラルアップ研修を通じて繰り返し指導していく。

項目21（ホームページ）に関して、110名の集計者のうち、85名が利用したことがない（全体の約77%）という結果であった。今年度、あると良いであろう項目を情報担当者を中心に、できるだけ迅速にアップできるよう努力してきた。しかし、それ以前に見てもらえるような工夫も必要であることが本アンケートで明確となった。次年度の課題の1つとしたいと考える。

項目10、11（学校行事・学部行事）に関して、それぞれ、3.69、3.71と極端に低い点数ではないが、職員アンケートは行事が多いという意見が毎年多く、職員の業務改革が謳われる昨今、家庭訪問等の学校全体に係わることも含め、次年度変更或いは、削減される可能性があることをご承知おきいただきたい。

(4) 自由記述について

職員個人が意識すればできそうな記述から組織として検討していかなければ難しい記述、又称賛的な記述から改善すべき記述まで多くの自由記述や各項目のご意見がありました。改善すべき項目について各学部や全体、分掌等での話し合いを行い、よりよい方向へ学校運営の改善を図っていきます。

(5) その他

この結果（自己評価）は、開かれた学校づくり委員会で再点検（関係者評価）し、よりよい学校運営に向けて改善を図っていきます。